



(原文 URL : <https://mailchi.mp/theibta/rculorsyeg-2299281>)

IBTA e-News

国際脳腫瘍ネットワーク 月刊ニュースレター

2020 年 12 月号

【トップニュース】

2021 年に向けて

私たちの多くにとって、2020 年は大きな挑戦、変化、喪失の年となった。COVID-19 の壊滅的な被害にもかかわらず、私たちは、パンデミックから生じる共通の課題を通して、連帯、優しさ、相互支援、愛に関わる数多くの行為を目の当たりにしてきた。この一年を振り返りながら、より良い新年を迎えたい。IBTA を代表して、皆さんにとって、幸せで、安全で、健康で、希望に満ちた 2021 年になることを願う。

IBTA Brain Tumour magazine を 112 カ国で約 10,000 部送付

2020 年の Brain Tumour magazine の出版は COVID-19 により遅れているが、止まったわけではない。IBTA は 11 月、Brain Tumour magazine のデジタル版を発行した。今月 12 月にこの年刊誌の印刷版が英国で 10,000 部印刷され、現時点で 9,000 部以上が 112 カ国の読者に無料で配布されている。Brain Tumour magazine の 2020 年版には、COVID-19 と脳腫瘍に関する記事、世界各国の様々な記事、治療の展望、インタビュー、コミュニティニュース等が掲載されている。また、昨年米国メリーランド州ベセスダの国立衛生研究所 (NIH) で開催された第 4 回 World Summit of Brain Tumour Patient Advocates (隔年開催) のフルレポートも掲載されている。今後発行される Brain Tumour magazine と月刊の IBTA e-News の購読を希望する場合は、[こちら](#)を参照。

Brain Tumour magazine の 2020 年版をオンラインで読むには[こちら](#)をクリック、または[こちら](#)からダウンロード。

COVID-19 が脳腫瘍の非営利団体および慈善団体に対して与えた影響に関する IBTA の国際的調査の結果が、*Neuro-Oncology Advances* 誌に掲載

2020 年 5 月~6 月、COVID-19 パンデミックが脳腫瘍患者、非営利団体介護者や慈善団体に与えた影響をより深く理解することを目的として、国際脳腫瘍ネットワーク（International Brain Tumour Alliance）は国際的調査を実施し、これらの団体がウイルスにより受けた影響とその課題に対応するためとっている戦略を明らかにした。COVID-19 パンデミックにより、非営利団体や慈善団体は、スタッフやボランティアの自宅待機に迅速に対応しなければならなくなった。急速にデジタル技術を向上させ、新しいサービス提供方法を開発し、対面での募金活動中止による収入の減少に対応するため新しい資金調達方法を開発しなければならなかった。

22 カ国の 77 の脳腫瘍患者・介護団体が 37 の質問に答えるオンライン調査に回答し、IBTA はその結果を論文「[The Brain Tumour Not-for-Profit and Charity Experience of COVID-19: Reacting and Adjusting to an Unprecedented Global Pandemic in the 21st Century](#)」にまとめた。本調査の報告は現在、オックスフォード大学出版局の学術雑誌 *Neuro-Oncology Advances* 誌にオープンアクセス論文として掲載されている。

IBTA e-News の [2020 年 9 月号](#)で取り上げられているように、COVID-19 が脳腫瘍患者および介護者に与えた影響に関する IBTA の国際調査は、米国神経腫瘍学会（SNO）の COVID-19 タスクフォース、トロント大学、トロント大学保健ネットワークとの共同で実施され、*Neuro-Oncology Advances* 誌にも掲載されている。詳しくは [こちら](#) を参照。

脳腫瘍の合併症を治療するための新しい国際的ガイドライン

欧州臨床腫瘍学会（ESMO）と欧州神経腫瘍学会（EANO）の専門家からなる国際的な集学的チームが、原発性および二次性脳腫瘍の多くの重篤な合併症の治療に関するガイドラインと国際基準をまとめ、[Annals of Oncology](#) 誌に発表した。これらのガイドラインは、発作、脳浮腫（腫脹）、出血、血栓症（血栓）などの「血管および神経系の」合併症を対象としている。EANO の Matthias Preusser 会長は、次のように述べている。「私たちがまとめた新しいガイドラインは、世界各国で適用・実施することができるため、患者の安全性を大幅に向上させることができます」。詳しくは [こちら](#) を参照。

成人におけるびまん性神経膠腫の診断と治療に関するガイドラインの改訂版を発表

欧州神経腫瘍学会（EANO）が、びまん性神経膠腫の成人患者の診断と管理に関する最新のエビデンスに基づいたガイドラインを *Nature Reviews Clinical Oncology* 誌で発表した。脳腫瘍に関する知識の大幅な進歩に呼応して、EANO でタスクフォースが結成され、診断、治療、フォローアップのための推奨事項を提案するこの文書が作成された。詳しくは[こちら](#)（論文全文）を参照。

初発 MGMT メチル化神経膠芽腫を対象としたオブジーボ（ニボルマブ）の第 3 相試験 CheckMate-548 試験の最新情報

Bristol Myers Squibb（BMS）社は、腫瘍に MGMT メチル化プロモーターを有する（腫瘍が特定の化学療法に対してより脆弱になる遺伝的状態である）初発膠芽腫患者を対象とした第 3 相試験 CheckMate -548 試験において、オブジーボ（一般名：ニボルマブ）を評価し、ベースライン時にコルチコステロイドを使用していない患者および試験の全無作為化集団において、主要評価項目である全生存期間（OS）を達成できないであろうことを発表した。このニュースは、独立データモニタリング委員会（DMC）による本試験の定期的レビューを受けて発表されたものである。DMC は、試験を中止すべきような安全性に関する懸念はオブジーボを投与された患者に認められていないとの見解を示した。オブジーボ（一般名：ニボルマブ）は、免疫細胞ががん細胞をより効果的に攻撃できるように設計されたチェックポイント阻害剤タイプの免疫療法である。CheckMate-548 試験では、初発 GBM の標準治療であるテモゾロミドと放射線療法にオブジーボ（一般名：ニボルマブ）を追加した場合と、初発 GBM の標準治療にプラセボを追加した場合とを比較した。BMS 社は、試験データの完全評価を完了し、最終結果を腫瘍学コミュニティと共有するとしている。同社のプレスリリースによると、患者は治療の選択肢についてカウンセリングを受け、現在オブジーボのベネフィットを受けている患者は、医師の同意が得られれば治療を継続することが認められるとのことである。詳しくは[こちら](#)（同社プレスリリース）を参照。

脳腫瘍患者権利憲章をできるだけ多くの言語へ翻訳できるようお願い

脳腫瘍患者権利憲章は 2020 年 7 月に発表され、現在までに 80 を超える患者団体や医療団体などの支持を受けている。寛大なボランティアの方々のおかげで、憲章は 9 カ国語（中国語、フランス語、ギリシャ語、ヒンディー語、イタリア語、ノルウェー語、日本語、ポーランド語、ポルトガル語）に翻訳され、大変感謝している。脳腫瘍患者権利憲章を母国語に翻訳するボランティアに興味のある方は、kathy@theibta.org まで。翻訳者のためのガイドラインと憲章についての詳細は、[こちら](#)を参照。

【治療関連ニュース】

初発膠芽腫に対するオプチューン療法がスイスで基礎健康保険の対象となることを Novocure 社が発表

Novocure 社は、スイス連邦公衆衛生局（BAG）が 2021 年 4 月 1 日付で初発膠芽腫患者の治療を目的とするオプチューン（交流電場腫瘍治療システム）とテモゾロミドとの併用療法を治療法・機器リスト（List of Remedies and Equipment : MiGeL）に追加したことを発表した。治療法・機器リストは、スイスの基礎健康保険の対象となる医療機器を定めたものである。詳しくは[こちら](#)（同社プレスリリース）を参照。

NanoTherm の新しい治療センターをドイツのミュールハウゼンに開設することを MagForce 社が発表

MagForce 社は、ドイツのチューリンゲン州ミュールハウゼンにある Hufeland Clinic に、脳腫瘍患者のために NanoTherm の新しい治療センターを竣工したことを発表した。これはすべての安全性監査が成功裏に完了したことを受けてのものである、と同社は報告している。ナノ療法の治療では、微小の酸化鉄含有ナノ粒子を腫瘍部位に注入し、腫瘍部位を交流磁場で加熱することで、がん細胞を破壊する。詳しくは[こちら](#)（同社プレスリリース）を参照。

【研究ニュース】

瀕死の脳腫瘍組織を破壊しようとする身体の働きは膠芽腫の増殖を加速させる可能性があることを研究が示唆

[Nature Communications](#) 誌に発表された動物研究によると、脳腫瘍内の死滅組織の破壊に関与する免疫細胞の一種である好中球は、実際に腫瘍の増殖を促進し、膠芽腫の生存率を低下させる可能性があるという。脳腫瘍内の組織壊死（組織死）は生存率低下の典型的な前兆であることが知られている。本研究では、好中球が瀕死のがん細胞を一掃しようとするプロセス（フェロプトーシスと呼ばれる）が残存している腫瘍組織の増殖を想定外に促進していることが示唆されており、これは瀕死の腫瘍細胞ががん増殖を促す物質を放出しているかもしれないからだとしている。詳しくは[こちら](#)を参照。

テント上膠芽腫で術中 MRI がより効果的な腫瘍摘出につながると 研究報告

[Journal of Neurosurgery](#) 誌に発表された知見によると、多施設共同研究において、手術中に定期的に行われる MRI スキャン（「術中 MRI」または iMRI と呼ばれる）を使用することにより、より綿密な腫瘍摘出につながり、従来の手術方法と比較して初発膠芽腫患者の生存期間が延長されることが明らかになった。本研究のテント上（上脳領域）膠芽腫患者のコホートにおいて、iMRI が切除範囲（腫瘍の切除量）および総切除率（MRI によって目に見える腫瘍がすべて切除された患者の割合）を有意に改善し、生存率を延長させていた。詳しくは[こちら](#)を参照。

脳に転移した乳がんで見つかった遺伝子の役割

[Cancer Cell](#) 誌に発表された新しい研究により、ほとんど解明されていない遺伝子が、乳がんの脳への転移（広がり）においてどのように重要な役割を果たしているかが明らかにされた。研究者らは、乳がん細胞の DNA と脳に転移した細胞の DNA を比較し、YTHDF3 という遺伝子の活性が脳転移の方でずっと高いことを発見した。その後マウスを用いた実験により、乳がん腫瘍が脳に転移する能力を高める分子変化のカスケードにおいて YTHDF3 が重要な役割を果たしていることが明らかになった。これは、これらのプロセスに対する将来的な標的治療の希望を示唆している。詳しくは[こちら](#)を参照。

希少で侵襲性のある「明細胞」髄膜腫腫瘍の遺伝的な原因を研究者 らが発見

研究者らは、侵襲性の高い「明細胞髄膜腫」を他の侵襲性の低いタイプの髄膜腫と区別する遺伝的特徴を同定した。明細胞髄膜腫は希少で、小児および若年成人が罹患しやすく、再発して脳全体に広がる傾向にある。*Acta Neuropathologica* 誌に発表された研究では、SMARCE1 と呼ばれる遺伝子の突然変異が、他の特定の DNA 変化と並んで、この種の腫瘍の重要な特徴であることが明らかになった。本研究の著者らは、SMARCE1 遺伝子の突然変異が明細胞髄膜腫の主な原因である可能性があるかと結論づけており、この発見はこの疾患の将来の治療法に貢献する情報をもたらす可能性がある。詳しくは[こちら](#)（論文全文）を参照。

初発および再発膠芽腫を対象とした PARP 阻害剤を用いた第 0 相試験を開始

米国アリゾナ州フェニックスにある [Ivy Brain Tumor Center](#) は、がん細胞が自らの DNA を修復する能力を阻害するパミパリブ（BeiGene 社が開発）と呼ばれる治験薬「PARP 阻害剤」の第 0 相膠芽腫臨床試験を開始したと発表した。従来の臨床試験とは異なり、第 0 相試験は、初期の薬物試験と最終的な有効性試験の橋渡しとなるよう設計されている。このアプローチにより、医療従事者は手術後 10 日以内に患者の腫瘍に対する治療の効果を測ることが可能となり、また医療チームは治療に効果がありそうかを患者に伝えることができ個々の患者に対してより迅速に治療決定をすることが可能となる。詳しくは[こちら](#)を参照。

【2020 SNO バーチャル会議から厳選 研究ニュース】

11 月 19 日-21 日にオンラインで開催

初再発の IDH-野生型の MGMT メチル化膠芽腫を対象とした 3 剤併用療法試験での高い忍容性と有望な効果が、中間結果で明らかに
詳しくは[こちら](#)を参照

再発膠芽腫を対象とした ERC1671 ワクチン第 2 相試験の期待のできる初期結果報告
詳しくは[こちら](#)を参照

初発膠芽腫を対象とした革新的な二重ワクチン+免疫療法の臨床試験早期結果が Virtual SNO 2020 の最新アブストラクトで発表
詳しくは[こちら](#)を参照

5-アミノレブリン酸（5-ALA）を用いた穿刺型光線力学療法が悪性神経膠腫再発に有望であることが明らかに
詳しくは[こちら](#)を参照

【企業ニュース】

Novocure 社が TRIDENT 第 3 相試験で最初の患者が登録されたことを発表

Novocure 社は、[TRIDENT 国際共同第 3 相試験](#)に最初の患者が登録されたことを発表した。本試験は、初発膠芽腫患者を対象とする放射線療法およびテモゾロミドとの併用療法によるオプチューンの生存率向上の可能性を検証する無作為化試験である。詳しくは[こちら](#)（同社プレスリリース）を参照。第 3 相 TRIDENT 試験の詳細は[こちら](#)（Clinicaltrials.gov）。

Oncocetics 社が中華圏での ONC201 の使用権を華潤三九医薬股份有限公司に許諾

Oncocetics 社は、同社のがん治療薬 ONC201 の中華圏での製造権を華潤三九医薬股份有限公司（以下「CR 三州」）に認可したことを発表した。ONC201 については現在、H3 K27M 変異を有する神経膠腫を対象とした複数の臨床試験が進行中である。同社プレスリリースによると、今回の合意により、同薬へのアクセスを世界的に拡大でき、また中国国内の患者に ONC201 を提供できるようになるという。詳しくは[こちら](#)（同社プレスリリース）を参照。

SonALAsense 社が再発膠芽腫を対象に非侵襲的音響力学療法の臨床試験を開始することを発表

SonALAsense 社は、他の脳腫瘍型と並行して再発膠芽腫の治療を目的とする非侵襲的な音響力学療法 (sonodynamic therapy : SDT) のプラットフォーム技術の詳細を発表した。この併用療法では、5-アミノレブリン酸 (5-ALA) を使用するがこれは脳腫瘍細胞に選択的に取り込まれる「色素」であり、青色光の下で蛍光を発する。SDT では、指向性超音波を用いて薬剤を「活性化」し、腫瘍細胞に損傷を与える。同社の発表によると、光活性化薬剤が集束超音波でも活性化できるという発見が、音響力学療法の開発につながったとのことである。SonALAsense 社は、医療機器メーカーである Insightec 社と共同研究・ライセンス契約を締結、また米国フェニックスにある Ivy Brain Tumor Center と共同研究契約を締結し、この治療法を含む再発膠芽腫の第 0 相ファースト・イン・ヒューマン (First in Human : FIH) 臨床試験を実施するとしている。詳しくは[こちら](#)（同社プレスリリース）を参照。

CNS Pharmaceutical 社の抗がん剤ベルビシンの治験新薬申請 (IND) が承認され、膠芽腫が対象の第 2 相臨床試験が 2021 年に開始予定

CNS Pharmaceuticals 社は、米国食品医薬品局 (FDA) が膠芽腫を対象とした抗がん剤ベルビシンの治験新薬申請 (IND) を承認したと発表した。同社は、膠芽腫における本薬剤第 2 相臨床試験を開始するとし、2021 年第 1 四半期に患者登録を始める予定である。詳しくは[こちら](#)（同社プレスリリース）を参照。

Kazia 社が、びまん性橋膠腫（DIPG）を含むびまん性正中神経膠腫を対象としたパキサリシブの「適応的（デザインの）」臨床試験へ向け、太平洋小児神経腫瘍コンソーシアム（PNOC）との共同研究を開始予定

Kazia Therapeutics 社は[太平洋小児神経腫瘍コンソーシアム](#)（Pacific Pediatric Neuro-Oncology Consortium：PNOC）と共同で、びまん性橋膠腫（DIPG）を含めたびまん性正中神経膠腫を対象に、Kazia 社治験薬であるパキサリシブ（旧 GDC-0084）を含む複数の治療法の臨床試験を開始することを発表した。「適応的（デザインの）」試験である PNOC022 試験では、複数の治療法をさまざまな組み合わせおよびさまざまな患者集団で検証する。本試験では、パキサリシブに加え、初めに Oncoceutics 社の ONC201、SecuraBio 社のパノビノスタットも試験の対象となる。詳細は[こちら](#)（同社プレスリリース）を参照。

【学会ニュース】(抜粋)

現在の COVID-19 パンデミックの影響で、世界中で多くの対面式の会議や学会が中止、延期、またはバーチャルイベントに変更されている。このニュースに遅れを取らないよう最善を尽くしてはいるが、予定されているイベントの状況については、必ず会議主催者に確認のこと。

2020 年の学会会議

2021

1 月

[eEANO ウェビナーシリーズ](#)

神経放射線療法 101（無料／EANO 会員限定）

2021 年 1 月 13 日 16:00-17:30 (中央ヨーロッパ時間)

[eEANO ウェビナーシリーズ](#)

ベストオブ SNO（無料／EANO 会員限定）

2021 年 1 月 27 日 16:00-17:30 (中央ヨーロッパ時間)

2 月

[eEANO ウェビナーシリーズ](#)

神経腫瘍学での格差、日常の臨床診療では重要か？（無料／EANO 会員限定）

2021 年 2 月 24 日 16:00-17:30 (中央ヨーロッパ時間)

4 月

[SNO／NCI 合同シンポジウム：中枢神経系腫瘍の代謝を標的にする](#)

2021 年 4 月 6 日－7 日

アメリカ メリーランド州ベセスダ

[キャンサーリサーチ UK ケンブリッジセンター](#)

[神経腫瘍学会議 2021](#)

2021 年 4 月 19 日－20 日

イギリス ケンブリッジ

5 月

[4 年に 1 度開催 第 6 回世界連合神経腫瘍学会 \(WFNOS\) と第 18 回アジア神経腫瘍学会会議 \(ASNO\)](#)

2021 年 5 月 6 日－9 日

現在 2022 年 3 月 24 日－27 日へ延期

大韓民国 ソウル

6 月

[2021 SNO 小児科学会－隔年開催 第 6 回小児神経腫瘍学 基礎および橋渡し研究会議](#)

2021 年 6 月 11 日－12 日

アメリカ ワシントン D.C.

[脳腫瘍会議 2021](#)

2021 年 6 月 21 日－23 日

ポーランド ワルシャワ

2021 年または 2022 年に開催される脳腫瘍患者やその擁護団体によるイベントまたは学術会議（バーチャルか対面かは問わず）を企画している方、ご存知の方、または上記イベントの変更にお気づきの方は、kathy@theibta.org まで。[イベントページ](#)に掲載可能。

IBTA ウェブサイトの[会議ページ](#)で、今後の学術会議やイベントの最新情報を確認のこと。

== 翻訳者：会津 麻美 / JAMT (ジャムティ) 翻訳チーム ==

IBTA（国際脳腫瘍ネットワーク）について

私たちについて 国際脳腫瘍ネットワーク（The International Brain Tumour Alliance：IBTA）は2005年に設立されました。各国の脳腫瘍患者や介護者を代表する支援、提唱、情報グループのネットワークであり、脳腫瘍の分野で活躍する研究者、科学者、臨床医、医療関係者も参加しています。詳細は www.theibta.org をご覧ください。

ご意見をお聞かせください。IBTA コミュニティで共有したいニュースがあれば、ぜひお聞かせください。宛先：chair@theibta.org 月刊ニュースレターやホームページを通じて、ご購入者の皆様にできるだけ多くの情報を中継していく予定です。メールニュース記事の選択は、編集者の裁量で行われます。

Copyright © 2020 The International Brain Tumour Alliance, All rights reserved. 無断複写・転載を禁じる。

（免責事項）国際脳腫瘍ネットワーク（IBTA）は、e-News（あるいはIBTA向け、またはIBTAに代わって作成されニュース内でリンクを提供しているすべての資料、報告書、文書、データ等）に掲載される情報が正確であるよう尽力しています。しかし、IBTAはe-News内の情報の不正確さや不備について一切の責任を負いません。また、その情報やリンク先のWebサイト情報など、第三者の情報の不正確さに起因する損失や損害についても一切の責任を負いません。このe-Newsに掲載される情報は教育のみを目的としたものであり、医療の代替となるものではなく、IBTAウェブサイト上の情報は、医療上のアドバイスや専門的サービスを提供することを意図したものではありません。医療や診察については、主治医にご相談ください。臨床試験のニュースを掲載することは、IBTAの特定の推奨を意味するものではありません。IBTA e-Newsからリンクされている他のウェブサイトは、IBTAは管理していません。したがって、その内容については一切責任を負いません。IBTAは読者の便宜のためにニュース内でリンクを提供しているものであり、リンク先のウェブサイトの情報、品質、安全性、妥当性を検証することはできません。IBTAのプロジェクトに企業が協賛することは、IBTAが特定の治療法、治療レジメン、行動の推奨を意味するものではありません。（スポンサーの詳細については、スポンサーシップ・ポリシーをご覧ください）。e-Newsに掲載されている資料の見解や意見は、必ずしも国際脳腫瘍ネットワークのものではない場合があります。